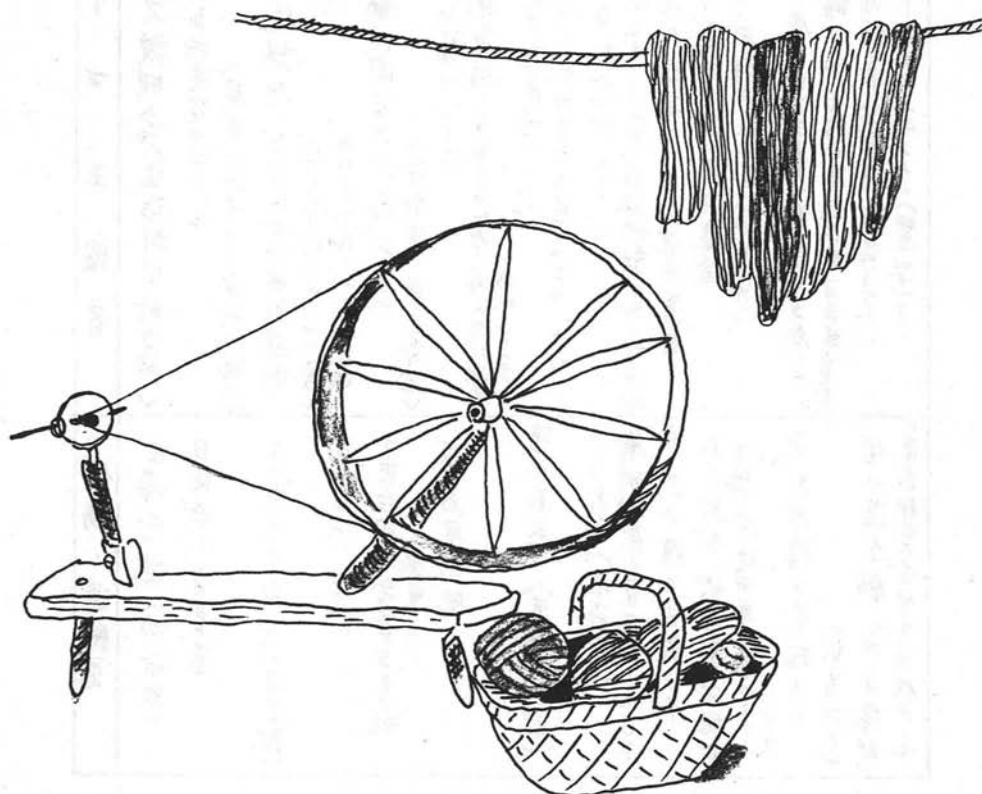




今月の編集は＜ 札幌 ＞ 122号 400円

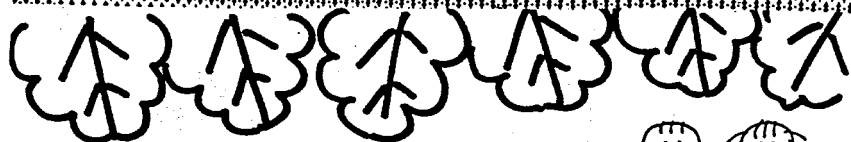
性とし ー 体とし 生き方の交叉点 ー

- 性の思ひこみ ----- 谷 百合子--3
- 愛のかたち ----- 奥村 望子--4
- 10代・20代の性 ----- 後藤 昌子--5
- セックスもコミュニケーション----- 盛生 高子--6
- 売買者 ----- 荻野 京子--7
- ポルノグラフィーの思想----- 岡本 とみみ--8
- 性教育の授業ととして--- 細田 英理子--9
- 子どもたちに性を語れよか--- 高橋 芳恵--10
- 「月経」インタビュー ----- 11
- =座談会=
- 思ひこみはあーい
- わたしの性・あなただの性 -----12
- 子としにかあふない ---- 山口のリ子--17



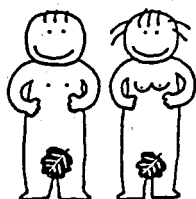
〈女のつどい・女の講座〉

日 時	テ ー マ ・ 主 催 者	会 場 ・ 連 絡 先
10月25日(日) 13:30~17:00 25日(日) 12:00~	東京シアハウス説明会へ生活科学研究所へ 原発はとめらゆる市民をスバル 松井やよりの連続講座ーアジアの女性解放運動ー 女性の本展 パートタイム労働に関するシンポジウム 軍縮週間平和行動アピール 核兵器廃絶と軍縮を実現するために婦人の行動をひろげる会 新首相にモノ申す市民パレード へ国家総動員法に反対する市民ネットワーク へいゝあんゝ6周年記念パーティ 国際熱帯林セミナーへ熱帯林行動ネットワーク 夫婦別氏についての講演会ー久保田真苗 アジアの女性たちの会10周年記念集会 ー問い直そう、金持ちニッポンと男ー 寸劇オットコ一座ー男の子育てを考へる会ー へ東京弁護士会・女性の権利に関する委員会 日本婦人問題懇話会 25周年記念のつどい 発想から受えるーサのシンポジウム(餐室)ー	主婦会館(四谷駅) 日比谷小音楽堂 東京山手教会(渋谷駅) クレヨンハウス 中央合同庁舎第5号館 講堂2F 高島平団地 清水谷公園(赤坂見附駅) いゝあん(渋谷駅) 横浜神奈川県民ホール6F 東京弁護士会館3F 山手教会・渋谷勤労福祉会館・早稲田奉仕団セミナーハウス 東京弁護士会館3F (保育付)
29日(木) 18:30~21:00 11月28日(水) 30日(金) 13:15~16:45 30日(金) 14:00~15:30	へ原発はとめよう、東京行動 へアジアの女性たちの会 へリーフル・ト・ワム へ労働省・東京都他	
11月5日(木) 18:00~ 13日(日) 17:00~23:00 14日(日) 10:00~20:00 18日(水) 17:30~ 21日(土) 22日(日) 28日(土) 13:30~16:30	15日(土) 14:00~ 14日(土) 13:00~17:00	全水道会館(水道橋駅) 東京都立大学学生会館ホール



性と生

性の思いこみ



リブを自認する（あごら札幌）の会員の中でも、「性・セックス」に関しては余りオープンに語りあったことはありません。

恥ずかしいということもあるでしょうが、しかしなぜ恥ずかしいのかとなると、そのなみは曖昧です。

避妊についても、一番大切なことは、男と女の協力関係にあるということなのですが、基本的なことを、男ときちんと語りあっているか、となると、この点も思いこみや、すこみが多く曖昧です。

性を語り尽くすには膨大な時間と、各方面からの考察を必要とするのですが、わたしたちは、まず、自分を語ることから始めてみました。

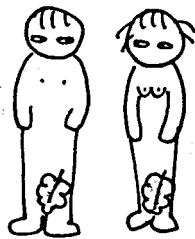
どういう「性」を選ぶかは、どういう「生」を生きているのかと同じ重さを持っています。まだまだ「神話」の部分が多い「性」の問題を「生きる」として語り合う場をつくっていくことが、より豊かな「性」に結びつき、人間解放へとつながって行くのではないのでしょうか。

谷 百合子

体と心 生き方の交叉点

— 性を語る —

性のあり様は、男と女の関係性をくっきりと浮かび上がらせます。気が進まぬままに性を受け入れてはいないだろうか、避妊について十分な話し合いがなされているだろうか。経済的、精神的に依存していると、自分を主張することが難しいものです。自らの性をしっかり見据えること、そのことこそが、豊かな性を生き、そして、子どもにも語っていくための第一歩ではないでしょうか。



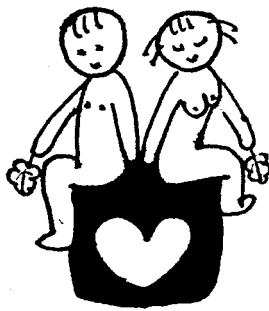
愛のかたち

奥村里子

「女だからできないということとは少なくなっただけ、放浪だけは女に許されて

いけないと思うの。だってレイプされたら困るから。強姦の形が愛の形と同じなので愛の行為ができなくなってしまうから。」突然未婚のMが言いました。「エーッどうして？」畏敬する年下の友人と女三人で愉快地飲んでいた私は、隣のYの方を向き、「お宅はどうなの？」と持ちかけるに即座に「ウチ？ウチなんか上

になったり下になったり、疲れたから止めようっていったりサ。」妙に核心を突いたラジカルな返事が返ってきました。私は痛快な気分になって笑いました。放浪だけは女に許されていないと言ったMは、ほんとうは、性だけは女に許されていないと言っべきだったのではないのでしょうか。彼女は愛の形（性行為の形）



が、女にとって受身、服従、屈辱であることを語らずに、愛のかたちという優しい言葉で表現しました。その愛の行為のイメージを傷つけないために、レイプを避けなければならないのだと。ことに性に関する限り、彼女も男の側の強制的性愛のイメージから自由ではなかったのです。これだけはきちんと見据えておかなければならないと思います。正常位といわれている愛の形が強姦の形と同じであるということ。強姦者も恋人も同じ事（強姦）をするということ。そして女は性に関する限り、いまだ依存的であり、自己確立されていないということ。男は何百年の間、女の性器を所有し

てきました。その極端な例として、クリトリスの切除手術があります。「エジプトのミイラのクリトリスがすべてえぐり取られていた事を貴女がたは知っていますか。イエメンでサウジアラビアで現在でも〈小さな娘〉の切除手術が行われている」（「最後の植民地」より）女の自発性、女の欲望の庄殺は外国の例を見てもなく日常的に私たちの回りにあります。一昔前の婦人雑誌には（今もそうかもしれませんが）初夜の心得として、夫を迎え入れる体位といった記事が載せられていたものです。自分が望まなければすぐに足を開く必要などないはずなのに。私たちの〈小さな娘〉は、その器管がそうされているというわけではなくとも心理的に切除されているのではないのでしょうか。

女の足を開かせるために男は経済力を武器にして制度の中に女を押し込めてきました。これは逆に言えば、経済的な庇護を得るために女の側が性器を物として売り渡したということでもあるのですが、

弱い性に対する男の侵略という側面が強いと思います。性にまつわりついている恥ずかしさ、陰湿さは、この人間の尊厳にかかわる部分を売買する事の恥と深く結びついているのです。

女が自分の性を大らかに語ることができるエロスの夜明けが、もう手を伸ばせば届く所にきているように思われるけれど、それはまた大変な道のりでもあります。性の自主性を獲得するために私たちは、男の性の強制に対してどれだけの否を言わなければならないのでしょうか。

10代・20代の性

後藤昌子

I、「私、彼氏に申し訳なくて。私の胸って小さいんだもの」と高校生の女の子。II、つきあっている男がコンドームをつけたがらず、膣外射精で避妊（？）し、妊娠、中絶をくり返す女子学生。

Ⅲ、つきあっている男との関係が悪くなくてもセックスを強要される女。「おまえがやらせなければよそへ行つてする権利がオレにある」という男。

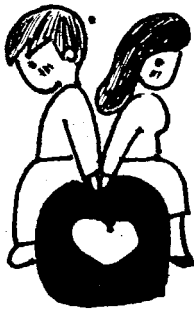
Ⅰ、女の子は自分の体を自分という主体として考えにくい。女の子は見かけが大事なんだというメッセージは、幼い頃から「かわいらしく」なるように育てられ、マンガ、雑誌、テレビ、同級生の恋愛事件を通じて、女の子にしみついてしまう。その強力なりアリティを打破して、自分の体を自分自身としていとおしむ心を育てる援助は、今はほとんどない。

Ⅱ、女子学生も、自分の体を大切にするための知識と態度を身につけていない。

男は相手を大切にするための知識と態度を育てていない。確かに性、避妊に関する情報を、意識のある女は知ることができるとなったが、真にそれらが必要としている女は積極的に探そうとしない女なのだ。もともとそうした情報は、普通の女性と男性の一般常識であるべきだろう。

Ⅲ、男はセックスを我慢できないという神話がある。ほんとうではないだろうが、男も女もそう信じているようだ。女の体に関する情報に比べ、男の体の正確な知識はまだとても少ない。また、セックスはお互いの合意を前提とするという当然のはずのことが、現在あまり通用しないようだ。相手の意志を尊重するという、せ男と女のつきあいでは、セックスの場面で、無視されてしまうのだろう。

切実に、効果的な性教育を望む。自分の生きたいように生きる力を身につけるためにも、若い世代にこそ性を自分の問題として考え話す機会を作りたい。



セックスも

コミュニケーション

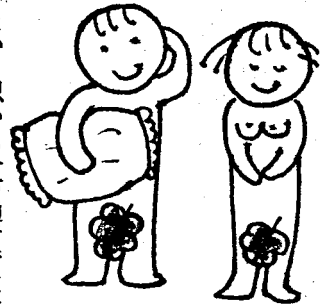
盛生高子

五月の例会で、結婚・家族ってなんだろう。を話し合っていたときに、誰からか、「夫に依存している妻は、気が乗らない時でもセックスを断れないのではないか」と言うような言葉が出た。

気が乗らない時でも受け入れている事の多い私は、少々ギョッとする。

言いわけみたいに私が言う「セックスって、コミュニケーションみたいなものじゃないか？ たとえば夫が疲れているときでも、私がどうしても聞いて欲しい話があれば、わりと強引に話してしまおうし、夫も聞こう、話そうと努力してくれる。

それと同じようなものじゃないかしら」完全に卑屈でないか、と問われれば胸を張る程の自信もないが、彼に好かれて



いたいという思いも一方通行でなければ
……なんて、また自己弁護。

男と女の関係にはメンタルな部分が大
きいけれど、養い養われる関係がなかつ
たら、セックスのかかわりについてもも
う少し神経質にならないですむように感
じる。 思えば結婚して三十三年、意志
と意志のぶつかり合いを常に繰り返して、
普通の夫婦よりも激しい仲だったと言え
ないこともない。

私はずっと家にも夫にも従属すること
を拒んできた。夫も社会的制約に足を取
られながらも、妻が自立した人間であろ
うとすることを当然と考え、少なくとも
ブレーキをかけることだけはしなかった。

自分を尊重するということは、相手を尊
重することなしには成り立たない。

先頃、お昼を食べながら見たテレビの
「老人の性」という番組の中で、小沢遠
子さんが、富士真奈美さんに向かって
「長い間、人間的にあつかいもしないで、
年とってから、溜っこい手して、ネーな
んてそばに寄って来られたって、ヤーヨ
ネー」と言った。

すごく可笑しくて、ものすごく恐いこ
の一言を世の男性によくよく考えてほし
いと思う。

売買春

荻野京子

戦前、日本がまだ貧しかったころ、九
州の島原、天草の女たちを「からゆきさ
ん」として主に東南アジアに密輸出して
いたのに対して、戦後の日本は経済大国

に成長し同胞の娘を売る必要がなくなり、
逆に東南アジアの女たちを「じゃばゆき
さん」として密輸入する立場に変わって
いった。

買春ツアーを組んで東南アジアへ出か
けるのも日本の商社の接待方法とか聞く
そんな夫を送り出すのも日本の中流家庭
の女たちである。素人の女に手を出され
るよりは商売女とのセックスは、妻の座
をゆさぶらないと言う。「売春が社会的
に表面化した性の物象化であるとすれば、
制度としての家の中で行なわれる私的な
奴隷的性労働は、社会的に表現されない、
性の隠された物象化である」と「女の自
立・男の自由」で菅孝行が言っている。

売買春で利用されるのは貧しい子持ち
の離婚女性が多いとか。強い国の男が、



弱い国の女たちをお金の力で意のままにする。平和な時も、戦争の時も女は男に支配される繰り返しでしかない。

札幌のすすきのにも屋台団地という場所がある。一坪位の屋台に女が一人「酒と性」を売っている場所が現在でも存在しているのをごく最近目にして驚いている。この女たちも生活のためにそうした仕事についているのかもしれないが、女から変わっていかなかったら買売春はなくならない。子供を持つ貧しい女たちが健全な仕事につけるように一人一人が考えていかなければこの繰り返しはこれからも続くであろうから、機会あるごとに男に支配されない社会を作っていくことと呼びかけていきたい。



ポルノグラフィイの

思想

岡本ともみ

「ポルノグラフィイは女への暴力である」という言葉があります。初めて聞いた時は、大げさだなと思ったけれど、今は、そうだなアと思います。

なぜなら、現在、広く流布されているポルノグラフィイ（裏ビデオ・ビニ本の類だけでなく、露骨な性描写を売り物にしたマンガや小説や雑誌など）のメッセージは以下のように要約できると思われます。

「女は動物だ、メスだ。（あるいは）女は物体だ」

「女は淫乱だ、女はいつもやりたがっている」

「だから、男は女を好きのように扱っていいし、女も結局はそれで喜ぶものだ」

「男の性欲は正しく、女の性欲はあるべきでないから悪い」

例えば「縛り上げられた女体」「箱詰めにされた淫肉」が「欲望のままにうごめき、男を受け入れる」というように女を完全に物体化した表現。あるいは「こんな腹ボテの姿になってもやりたがるなんて、やっぱり女は動物だ」等と述べる「妊婦ファック」を売り物にしたビデオのキャプション。あるいは「海辺のピチピチギャルをナンパする方法」を面白おかしく伝授しながら「誰とでもやりたがっている○○」（○○の中は女子中学生からOL・人妻まで、何でもよい）の「乱れた性風俗」を揶揄する記事……

こうした表現は枚挙にいとまのないほどです。ポルノの中では男は常に無実であり主体です。何という御都合主義！何という一方通行！

しかし、このような歪んだ構造の中で男性側だけが無傷でいるわけもないでしょう。ポルノグラフィイの洪水の中「性」というコミュニケーションの本当の素晴

らしさから遠ざけられている、という点においては男も女と同じではないか、と私は思います。

性教育の

授業をとおして

細田英理子

私は女子校に勤務しており、昨年度から高3を対象に80分の性教育（今年度は高2も実施予定）をしています。アーニ

出版のスライド等を使いながら、男子と女子の性心理、避妊、中絶、性の原則などについて話をします。その中で私が強調しているのは「性の原則」についての部分です。「セックスをする時点では男女双方に同等の責任はあるが、結果は妊娠という形で女性の体にあられること（中絶で傷つくのも女性）だからセックスする時は女性主体に考えていくこと――

女性には自分の体に責任をもち、男性は女性の体に気を使い女性の意志を尊重すること。ところが現状は全くその逆で、男性が男性の体（欲望）に気を使い、男の欲求は強い――がまんできないもの――それにこたえなくては嫌われると男性主体になっていること。これは長い間男性中心の文化だったためそうなっていること。」「女はあまり主張せず男にまかせておけばよい」という態度ではなく、イヤだったらイヤとハッキリ断ればいいし、セックスしたいならしたいでそのように意志表示し、避妊のこともきちんと話し合うこと」と教えています。

授業が終わったら生徒に感想文を書かせていますが、「知っているようでいて知らないことが多かった。よかった」「自分の体のことなのだから、女性ももっと自己主張すべきだ」などの意見が多く、だいたいきちんとうけとめてくれているようです。また、なかには「男性こそ是非性教育を！」というのもありました。

私も授業をやってみてつくづく思うのは女子だけに教えることの限界です。今の男社会で、「女とはこういうもの、こうあるべきもの、男とは……」と言う根強いものがある中で、彼女たちがどれほど自己主張し、率直に避妊のことなどを話しているのか。男性にこそ性教育をして、性についてのまちがった思いこみ、意識を変えさせたい。男女平等の観点にたった性教育がもっといろいろなところで見られる必要があると思っています。



子どもたちに

性を語れますか

高橋芳恵

子どもたちにしっかりと性を語ってほしい。自分の生を語ることが性を語ることにつながる。これは単に自分一人の生き方だけでなく異性（同性？）とのかわりの中での生き方が問われるということだ。セックスが真に体をとおしてのコミュニケーションであるなら、どちらか一方が望まないセックス、中絶、売買春などは明らかに否定されるだろう。

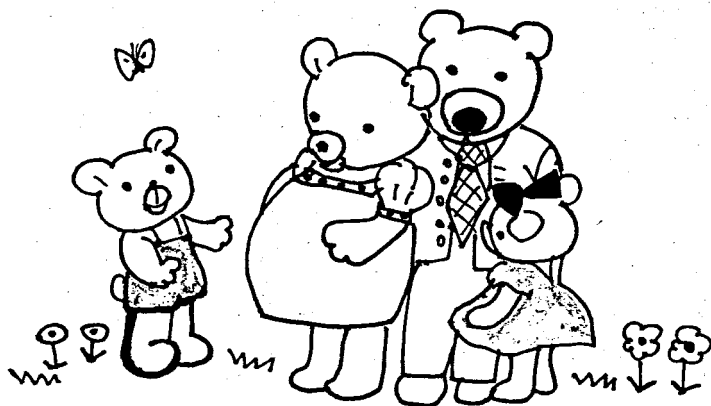
子どもたちに性を語るには、自らが生き生きとした性を生きているのか、また、今からでもそうするための努力をする気があるのか問われるだろう。私が性に興味を持ち始めた時、身近に真面目に答えてくれる人がいなかった。私は知りたい

欲求を封じ込めたままおとなになった。そして、何も知らないままにセックスを経験し妊娠の恐怖に怯えた。これじゃとても子どもになんて語れない。

このように思い悩んでいる時、すばらしいヒントを与えてくれたのが、北沢杏子さんだった。彼女は長年性教育に取り組み、例えば、著書「ひらかれた性教育1」（3〜9歳）、「同2」（9〜12歳）、「同3」（12〜15歳）では、年齢に見合った性教育を紹介している。彼女を囲む会で使うビデオ（北沢さん編集）の試写をわが家で行った時、偶然当時小二の娘が見てしまった。私が月経の時など、女には月一回出血があつて子どもを産める体になることなどを話してはいたが、女と男の合体に関しては、どう知らせようか迷っていた時だった。とにかく娘が見てしまった。そして、北沢さんの本をほしがるままに与えていった。それら数冊の本は娘が最も大切にしている本と同じ棚にならべられている。

こうして娘は、ほぼ正確に基礎的知識

を得た。わが家の第一段階はクリアした。間をおかず第二、第三段階が訪れるだろう。その時こそ、私自身の生と性が問われる。北沢さんの本と同じ棚を与えられるか否か、女たる私が試される時だ。



月

経

月経は、女にとって自然な生理現象なのにオープンに語られることがありません。さまざまな呼び名が使われるのも、隠そうとする意識の表れでしょう。

月経は、女の体の健康状態を知るバロメーター。はつきりした知識をもっと、まちがった思い込みや、不安から解放されま

す。もっともっと関心をもって話していきたいものです。

月経の呼び名はいろいろあるよ。生理、赤マン、お客さん、ブルーディ、ジャムパン、キティちゃん（ナプキンメーカー名が似ている）あってさと言ったりもするね。

（15歳）

今は月経と言うけど、月経とかメンスとかいうのは、学校で習ったことばという感じで何となくなじめなかったね。生理と言っていたこともあったけど、月経だけが生理現象じゃないし。月経と言うのが、一番妥当だと思う。

（34歳）

月経中であることを、あえて男の人に知らせたくないわね。何だかはだかを

想像されるようでイヤなの。だから、職場では、生理用品は、見つからないように持ち歩きました。

（60歳）

子宮を失ったので月経がないけど、月経のサイクルは感じる。排卵の前と後にあったおりのものが、今も同じ時期に、同じようにあるわ。かつてのように多くはないけど。月経が始まる頃になると、おっぱいがはってきて今でも、イライラしてくるの。

（40歳）

子宮筋腫で手術をしたんだけど、数年前から、病気が進行してくるにつれ、生理の状態がおかしくなってきた。ひどい時には、朝起きることができなかった

たほど。今にして思えば、もっと月経としっかり向き合っておけばよかったわ。かかりつけの産婦人科の医者をもって、何かおかしいと思ったら、すぐ相談するようすすめますよ。

（41歳）

月経が始まって二、三日すると、かたまりのようなものがでるんだけど。エーッ、あなたもそう？何かはがれ落ちてきているんだなと感じるわね。月経中は出血の状態が毎日変化していく。ああ、流れ出ているな、というのをしっかり感じていたいのナプキンを使っています。

（35歳）



—座談会—

田心いこみいばあ—い

わたしの性・あなたの性



思いこみ その1

—レイプ—

A あごろ札幌も今年で十二年になるけど性についてこれだけオープンな話し合いをするのははじめてじゃないかな。

F やっぱり性のことを話題にするのは「はしたないこと、恥ずかしいこと」と

いう意識がどこかにあるからよね。

B 小さいうちから、いやらしいもの、恥ずかしいものと言われ続けてきたから。

C でもこの「恥ずかしい」というのがクセモノね。たとえばレイプの場合、被害者の方が恥ずかしいと思ってしまうため、事件が表沙汰にならないことが多いでしょう。

E 届け出ても被害者の私生活をとやか

くいわれたり、そこでも二重に被害をうけたりして。

G それから、レイプという見知らぬ人の衝動的犯行と思いきみがちだけど、実際は顔見知りの計画的犯行が大半なんだから。

A 本人がイヤがることを無理やりされたという点で、他の犯罪、たとえば道で突然なぐられるというような事件と何ら

変わらないはずなのにね。レイプだけは「抵抗できたはず」「被害者も悪い」といわれたりする。

C これは「男の性欲は強い。がまんできないもの」という思い込みが信じられているから「スキがあった女も悪い」となるわけでしょ。

E 長い間男性中心の文化が続いてきたから強姦者の男に実には都合のよい社会になっているのね。

C ちかんのこともそう。小さい頃のスカートめくりにはじまって男が女を性的にからかうというのは日常茶飯事で、それが許される土壌、文化なのよね。

H イヤがることをするのは重大な人権侵害なのだとということをはっきりさせていくことが大事ね。

A こ二十年くらいは、女の側から発言する性の本とか出てきてはいるけど、それまでは男がほとんど本を書きウソばかり教えてきたから、女自身も自分の体からの声を信じないで、モノの本にはみんなこう書いてあるし、自分の方がおかし

いのかなと思ってきた。

C 本当にそう。前にひどい性教育の本を読んだことがあるの。偉い先生が「スカートめくりは叱らないように。正常な発達、関心なのだから」と説き、それに對して女教師が「私の指導はまちがっていたのですね」と大まじめにきいていたのですね」と大まじめにきいていたのですね。怒りのあまりその日は寝れなかったよ。

E 女の側からおかしいと思うことはほとんどん発言して、まちがった思い込み、意識を変えていかなきゃね。

思いこみ その2

—結婚—

D ところでさっきの「恥ずかしさ」に関連することだけど、恥ずかしいというのは自分の生き方が恥という自覚があるから出てくる。結婚制度の中で依存している性を売っているような後ろめたさが恥ずかしいにつながるんじゃないかな。

F エーッそこまで考えて「恥ずかしさ」

をとらえている人は少ないんじゃない？

A そうね。そう考えるのはつらいと思う。無意識に考えまいとしてるんじゃないかな。

H 自覚すると家庭の危機になる。

D 私が仕事をしているのでもいいセックスをしたいためかもしれない、ナンテン。

B 男に依存していたら双方にとっていいセックスはなかなかできないと思う。

G 当然経済的に自立していた方がいいけど、変な思い込みすりこみがあってもいいセックスはできないよね。

思いこみ その3

—避妊—

B 「家事、育児は女の役目」というのはおかしいと気付いた人でもセックスの場では男にまかせきりだったりする場合もあるんじゃないかな。

A 慎み深いのが女的美徳とされてきたから、避妊もあなたまかせ、相手がちゃんとやるならまだしも失敗して中絶。身

も心も傷つくのは女なのに。

G 避妊こそ女が主体的になるべきじゃない。

C そうして出てきたのがピルだと思っただけで、毎日毎日飲み続け、一日忘れただけで妊娠してしまい、避妊の義務も失敗の責任も女ひとりが負うなんて、ちょっと変じゃない。

G それにピルってホルモンの働きで排卵を止めるんでしょ。副作用なんかの個人差も大きいって聞いているよ。

E これからピルは手に入りやすくなるみたいだけど安易にピルを受け入れることは男と女の関係からいっても決してベターとは言えないと思う。

C 私は現段階ではコンドームによる避妊が一番いいと思うよ。男まかせという意味ではなく、主體的に二人でコンドーム



ムを選ぶという意味でね。

B Aさんのところでは必ずコンドーム使ってるんでしょ。

A ええ、もう子供はいらないと思ってから。

F 何もしてなかったらどんどんできちゃうものね。

A コンドームなしのセックスなんて考えられないよ。

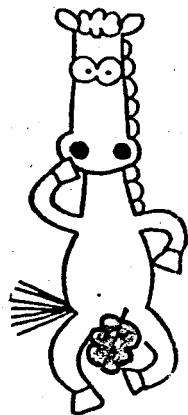
C 男はいつもコンドームをつけなきゃセックスをやれないと思っていた方がいいのよ。

I でも私たちの中にもやっぱりコンドームなんてつけない方がいいという感じってないかな。

B ムードは損なわれる気がするけど。中断されるから。

C 日常から相手と性について話し合っていたら、セックスの流れのひとつにコンドームの装着をいれることができるでしょ。

A そう。ムードの中にもコミュニケーション。



H でもコンドームをつけたセックスなんて、くつ下をはいてオフロに入る感じだっていついた男もいたけど。

A もしそうだとしても、くつ下でフロに入るくらいガマンしろっていいたい。男はまちがっても中絶なんてしないんだから。

C 妊娠の恐怖が強いと没頭できないでしょ。くつ下のこういうんなら女はいつでもオーバーを着てオフロに入ってるようなものじゃない。

A 女はそれでもいろいろなリスクをしょってるのだから、せめて避妊ぐらいは男がすべきよ。男は絶対妊娠しないのだから。

E 男まかせにしたり、男に気を使いきたりしないで、女も主体的にならなく

ちゃんね。そうすることが男と女のいい関係、いいセックスにもつながっていくんじゃない。

G 私も当然相手にコンドームをつけてもらおうと思ってるけど、より万全を期すためにも自分でできる避妊法もあった方がいいと思ってペッサリーをつくったの。

A そうだね。私もつくりたいと思ってるけどなかなか実行できないでいるの。

思いこみ その4

—男は誘うもの

女は誘われるもの—

G 私はまだセックスしたことがないんでしてみたいのね。この間、知り合いと会った時、やっぱりしたいなという気になったので誘ったんだけど断られちゃった。まあ私が断ることもあるだろうから、そんなものだろうなーって感じで。

B さすがGさんと思うわ。私だったら

傷つくんじゃないかしら。

H セックスの拒否というのは相手に傷つけられるのではなくて世間からの思いこみ、「男は誘うもの、女は誘われるもの」というのがあってそのために傷つくのだと思うな。

D 男はこうあるべき、女はこうあるべき、なんていうのがんじがらめになっていると窒息しそう。

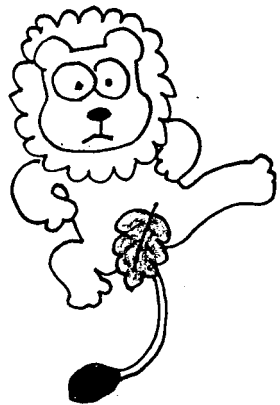
A セックスの場でも男がリードするってことになっていくからと練習しにいった病気をもらってきて、本人はそうとは知らず恋人にまでうつしてしまったなんてバカみたいだけど深刻よね。

E 思いこみ、すりこみが本来豊かであるべき性を貧しくしているんだね。

思いこみ その5

—愛の論理—

D ちょっと脱線するかもしれないけど、七月例会で駒尺喜美さんの魔女の論理、取りあげたでしょ。「智慧子抄」は光太



郎の贖罪のうただったのよね。駒尺さんはその中で「二人の燃えるような愛の喜びに嘘、偽りはなかったと思うのだが、その愛が、すでに男を主体にして、女はそれに従うという形での融合になっていること。ごく自然に男と女が愛しあったとき、すでに、そこには自ら不平等な形での愛しかない……略、そこでごく自然に愛しあった場合には、ごく自然に不平等になってしまふ」といっているのよ。

B すごくよくわかるわ。

A でもね、贖罪のうたでありながら、なおかつ「自分の痛さがあなたの痛さ、自分の快さがあなたの快さ」であって、決して「あなたの痛さがぼくの痛さ」に

はならないのよね。

F いつも男である光太郎が主体だからなのよ。

D 依存する側と依存させる側という歪んだ関係の中では、どんなに相手を思いやっていると、思ってもそれは錯覚でしかなく、男と女のエロスは開花しないと思う。

C 思いこまされたり、すりこまれたりしないうちに女と男は対等なんだ、ということをしっかりわからせたいな。

G セックスの場でも当然そうだってことをね。

—さらば—

思いこみの性—

B そうなるとやっぱり小さいうちからきちんと性教育やりたいね。

I 学校では親がすべき、親は学校がすべき、とお互いに譲りあっているよ。

A みんな私たちと同程度に自信がないのよ。

I それ、どういうこと。

A リブを自認する私たちですら、自然にしていたら話題にならない。だからこそ、あえて性について語ろうということになったでしょ。

H この企画をたててからも、どの程度まで話せるか自信がなかったけど、本当によくしゃべったものね。

A 私をはじめは性を語ることに尻込みしていたのに、先日の教研集会で、親の立場での性教育、ということでも十分くらいしゃべってくるくらいに成長？しちゃった。

I 私もAさんの応援団のつもりで参加したんだけど、もはや、学校でしてくれろのを待っていたのでは手遅れ、ということがよくわかったね。

A わが子に話すにしても、自信がついたらとか、いずれそのうちじゃ、遅いのよね。

B 日常の会話の中で、子どものだすサインをキャッチし、真面目に答えていきたいな。

I ギクツとしてシドロモドロでも答えるの？

E シドロモドロでもいいんじゃない。その時の自分の姿なんだから。

I もうちょっとマシに答えたかったら、自分が生き生きした性を生きようとすればいいんだものね。

C これからも、もっとオープンに語っていききたいし、オープンに語れる仲間もふやしていきたいね。



あともがき

で、性について考えるに深く考え話したことはなかったけど、自分のなかで思っていることを、今回は自分で見えてきたね。

けで話したけど、こんどは男もまじえて、性をも考えてみたい。

アンケートも、時間をかけて内容をもとに検討して調査してみたいね。



子どもたちがあぶない!!

みなさん、子どもたちの見ている雑誌を気をつけて見たことがありますか？ 今、私たちはのんびりしてはいられないくらい、子どもたちがあぶない状態におかれています。

最近、息子の通う小学校の近くで、中二の男の子が小二の女の子を暴行するという事件が起きました。このような事件は起こるべくして起きたこと、起こっても何の不思議はないと常々私は思っています。これは子どもが子どもを傷つけてしまった悲しい事件で、ふたりとも被害者です。

テレビを見ると暴力シーン、残虐シーンは日常茶飯事。ポルノビデオは子どもも買える状態で、中高生の男の子たちは、集団で親のいない家へ集まって見ているそうです。

本屋の店先にはたいへんな本が並んでいます。子ども向けのポルノ雑誌があることをご存じですか。可愛いアイドル歌手が表紙にのった写真雑誌をめくってみると、それはおとなのポルノ雑誌まがいのものばかり。

〔例・「投稿写真」、「ザ・シュガー」ほか〕マンガ雑誌になると内容のひどさはエスカレート、十歳くらいの女の子たちが、おとなの男たちの前で、裸でしばられてセリにかけられるようなストーリーやレイプシーンばかり。しかもそれを女の子たちが喜ぶという内容ですからギョッとします。〔例・

「ペーミンント」、「ロリポップ」、「ホットミルク」ほか〕
こういう本が店頭で「ドラエモン」の本などといっしょに並べられているのです。ぜひ一度書店に行つてよく見て下さい。
こういう本を性教育の学習会（公民館の自主講座グループ）で買い集めて初めて目にした時はショックでした。これらの本は三年位前から出ているそうで、たいへんな数の中学生・高校生の男の子たちに読まれているということです。そのほかにテレクラ（テレフォンクラブ、中高生の女の子を対象にしたデート相手紹介業）など、わが子はだいたいようぶなどとは、とてもものんきにしていられないくらい、子どもたちの間に広まっています。

中学生・高校生になると男の子たちは、からだはおとな並みになり、性衝動がとて強くなる時期です。思春期で不安定な子どもやおちこぼれて問題を抱えウツウツとしている子どもたちが、ちょっとしたきっかけで、こういう本やマスコミの影響を受けて、女の子を傷つけてしまうかもしれません。今回の事件は氷山の一角で、届け出ていない事件も身近でたくさん耳にします。

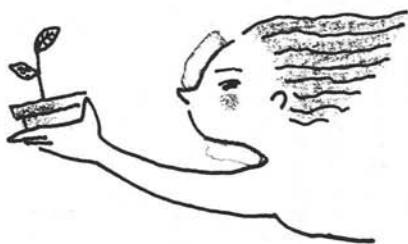
いま子どもたちは、私たちが育った時代とは比べられないほどの性情報の中で生きています。そしてこれらの情報がいかにひどいものばかりでは、いったい子どもたちはどんな性へのイメージを持つでしょう。これらの本などをなくすことができないとしたら、私たちは子どもたちがこの状況の中

KIDNAP! 美少女マーケット



へ入って行く前に、しっかりとした性教育をしておかなければならないのではないのでしょうか。けれども、男女平等観を持った人間の生き方としての性教育は、家庭でも学校でもほとんどなされていないのが現状です。

性教育の学習会は、昨年の女性講座から生まれたグループで、市内の小中学校での性教育の実態調査と、市内書店での本調査、そして親の性教育および性に関する意識調査を八人のメンバーでやりました。これらの調査を近いうちに冊子にまとめ、親や学校に対して、性教育を進めるよう呼びかける資料にしたいと思っています。(新座市在住 山口のり子)



தமிழக அரசு

〔新規入会〕

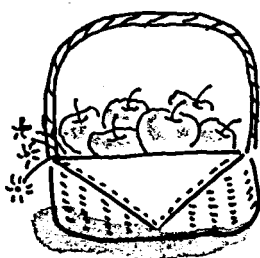
◆現在、医科大学で秘書として働いている二十九歳です。大学卒業以来今まで、

仕事と自分中心の日々でしたが、遅ればせながら結婚を考え始めて、これからの自分に戸惑いを感じています。ひとりでは何もできませんが、〈あごろ〉を通して「女も男ものびやかに生きる」ことを理論だけでなく、心で考えていきたいと思っています。今、素直に自然に生きたいと強く思います。（宇都宮市 大木桃子）

◆私は今名古屋市中区社会教育センターの講座の「婦人セミナー」あなたの人生生きてますか」というのを受講しておりますが、第一回には東海BOC代表高橋ますみ先生の子ども時から今までのことを聴講し、第二回は「幻の塔」の作者山下智恵子先生の子どもの時から今までのことを聴講してまいりました。

二人の先生共にいろいろ苦勞されたようなので、これからの人生に役だたせたいと思います。

(名古屋市 平形明子)



◆今、少しメケています。楽しみにしていた反原発出前の店のレベルアップ合宿に参加できなくなってしまったのです。理由は子ども、です。いろんな事情で子どもは連れて行ってはだめだということなのです。残念というより何かくやしいです。いろんなことを繰りあわせて今ま

でやってきたのに、ここにきてこんな大
事なものに参加できないなんて。核家族
幼児あり、身内なし、だとうていやっ
ていけないんじゃないかと、誰にともな
く頭にきています。子どもを奥さんにま
かせて夜遅くまで「立派な活動」をやっ
ている男の人にはわからないのかなあ、
やっぱり。むなしくなってきちゃった。
でも思う。私みたいな子どももあり、仕事
あり、子どもを預かってくれる身内なし、
っていうような者がやっていけない活動
挫折感を抱いてしまうような運動だっ
たら、やはりどこかマズいんじゃないかな
あと。これは勝手な言い分かしら。甘え
でしょうか。

このごろ思うのは、家庭を日常の中で大切にしていない人とはチームワークが組めないということです。

(東京 青木圭子)

ありがとう！

無事集会ができました

特集を出すための資金づくり、特集の編集と、目が回るような忙しさで、十五年記念集会の準備がすっかり遅れ、ふたをあげるまでヒヤヒヤしていました。

しかも、台風が日本列島を縦断するという。どうなることかと思いましたが、元氣印の女たちにおそれをなしたのか、台風サンもそれて下さり、五百人の会場が、どうやら格好がつかしました。

四十年の重い体験に裏打ちされた辻和子さんの「有縁の女」、中世女性の解放度を史実に基づいて的確に指摘された網野善彦さんの「無縁の女」、そして例によって痛烈でユカイな上野千鶴子さんの「選択縁の女」、どれもそれぞれに味わい深い、すばらしい講演で、遠くの方にお聞かせできないのが残念でした。

続いての、しま・ようこさんのコーディネートによる討論も、鋭い意見が次々に出ましたが、時間不足、盛り上がった

ところで交流パーティに移らねばならなかったのが心残りでした。

パーティには、河北新報の女子定年差別撤廃に長い闘いを続けて勝利された仙台の大槻寿子さんはじめ、たくさんの方が駆けつけて下さり、それぞれ心のこもるスピーチをしてくださいいましたが、旧交をあたためあうおしゃべりにかき消され、聞きとりにくかったのを申しわけなく思います。でも、〈どくだみ〉の丹羽さんたちの歌、会員の沢田好江さん指導のダンス(?)などで、アルコールの回りも一段とよかったです。

夜は稚内から福岡まで三十人が合宿、夜なかの二時半まで『第二世代論』。

翌朝は九時から、自己紹介に続き、福田光子さんの「『女学雑誌』と『あごら』」、高橋ますみさんの「私にとつての『あごら』そして『BOC』」、斉藤千代さんの「十五年を振り返る」を和室で車座になって聞き、ふたたび『第二世代論』。結局、最終的な結論は出ないまま、十一月十日までに、それぞれの『第二世代論』を事務局に送ることを約束しあって午後二時別れました。その後も三々五々、月刊のテーマや拠点づくりを話し合う輪が出来、十五年を節目に新しい明日に向かう力を感じました。